

A区分・C区分共通  
No.1(実演芸術・メディア芸術)

令和6年度舞台芸術等総合支援事業(学校巡回公演) 出演希望調書(実演芸術・メディア芸術 共通)

分野、種目(該当する分野、種目を選択してください。)

分野	音楽	種目	音楽劇
----	----	----	-----

申請区分(申請する区分を選択してください。)

申請区分	A区分
------	-----

複数申請の状況(該当するものを選択してください。) ※B区分継続団体については、申請企画数から除く

複数申請の有無	有	申請総企画数	3企画
---------	---	--------	-----

複数の企画が採択された場合の実施体制(該当するものを選択してください。)

※複数申請の有無で【無】を選択された場合は、未記入で構いません。(グレーアウトされます。)

複数の企画が採択された場合の実施体制	公演の実施時期が重複しなければ、複数の企画を実施可能
--------------------	----------------------------

芸術文化団体の概要

ふりがな 制作団体名	さかいしていおぺら いっばんしゃだんほうじん		団体ウェブサイトURL	
	堺シティオペラ 一般社団法人		http://sakai-city-opera.jp/	
代表者職・氏名	代表理事(会長) 葛村和正			
制作団体所在地	〒	591-8037	最寄り駅(バス停)	JR阪和線 百舌鳥駅
	堺市北区百舌鳥赤畑町4-256			
電話番号	072-254-1151			
ふりがな 公演団体名	さかいしていおぺら いっばんしゃだんほうじん		団体ウェブサイトURL	
	堺シティオペラ 一般社団法人		http://sakai-city-opera.jp/	
代表者職・氏名	代表理事(会長) 葛村和正			
公演団体所在地	〒	591-8037	最寄り駅(バス停)	JR阪和線 百舌鳥駅
	堺市北区百舌鳥赤畑町4-256			
制作団体 設立年月	1978年4月			
制作団体組織	役職員		団体構成員及び加入条件等	
	代表理事(会長) 葛村和正 代表理事(理事長) 坂口菜里 副理事長 水谷雅男 理事 7名		代表理事2、副理事長1、理事7、監事2、評議員24、一般会員360	
事務体制 事務(制作)専任担当の有無	事務(制作)専任の担当者を置く		本事業担当者名	農澤明大
経理処理等の 監査担当の有無	有		経理担当者名	小林敦子

本申請にかかる連絡先  
(メールアドレス)

office@sakai-city-opera.jp

<p><b>制作団体沿革</b></p>	<p>1978年 市民オペラとして活動を開始  1986年 堺市民オペラ協会発足。以後毎年オペラ定期公演を上演  1989年 堺シティオペラと改称  1995年 ドイツのケム ニッツ歌劇場と『魔笛』を共同制作し、堺とケムニッツの2カ所で公演  2006年 イタリア プッチーニフェスティバル(共同公演) プッチーニ作曲『蝶々夫人』  日本の音楽団体として初めての参加  2009年 社会的な信用を更に深め責任ある団体としてオペラを通じ、音楽芸術の普及・向上をはかり地域の芸術文化発展に寄与していくことを目標にかかげて法律に準拠した法人格を取得  2013年 オーストリア ウィーン公演(共同公演)「日本のオペラ&amp;狂言コンサート」  林 光 作曲『おこんじょうり』  2019年 オーストリア 日本・ウィーン国交150周年記念コンサート Juhu  2013年 第28回定期公演 C.グノー 作曲『ロメオとジュリエット』 上演  2014年 第29回定期公演 青島広志 作曲『黄金の国』 上演  2015年 第30回記念定期公演 G.ビゼー 作曲『カルメン』 上演  平成27年度 大阪文化祭奨励賞 受賞  2016年 第31回定期公演 R.シュトラウス 作曲『ナクソス島のアリアドネ』 上演  2017年 第32回定期公演 G.プッチーニ 作曲『ラ・ボエーム』 上演  2018年 第33回定期公演 青島広志 作曲『黒蜥蜴』 上演  2019年 第34回定期公演 G.ヴェルディ 作曲『アイダ』 上演  平成27年度 大阪文化祭賞 受賞  2021年 il Teatro L'alba L'amore オペラ×オーケストラ 歌劇『トゥーランドット』 上演  令和3年度 大阪文化祭賞受賞 (オペラ『トゥーランドット』)  2023年 第37回定期公演 G.ドニゼッティ 作曲『愛の妙薬』 上演</p>
<p><b>学校等における公演実績</b></p>	<p><b>文化庁巡回公演事業</b>  2020年度(巡回公演 6公演)、2021年度(巡回公演 9公演)、2022年度(巡回公演13公演)  2023年度(巡回公演7公演)  <b>堺市文化振興財団 さかいミーツアート事業</b>  2019年度(3公演)、2020年度(3公演)、2021年度(2公演)  2022年度(2公演+ワークショップ5回)、2023年度(1公演+ワークショップ1回予定)  <b>堺市文化振興財団 さかいアートスクール事業</b>  2016年度(1公演)、2017年度(1公演)、2018年度(3公演)  <b>堺市舞台芸術体験による被災地支援事業</b>  2016年度(3公演)、2017年度(3公演)  <b>小学校芸術鑑賞オペラ</b>  2015年度(1公演)、2017年度(1公演)、2018年度(1公演)、2019年度(2公演)  <b>オーストリアウィーンのマーラー音楽院</b>  2013年度 日本人学校及び現地子ども合唱団員に日本歌曲の紹介と指導を行い、オペラの本番の中に入れて公演</p>
<p><b>特別支援学校等における公演実績</b></p>	
<p>申請する演目のWEB公開資料</p>	<p>有</p>

参考資料の有無	※公開資料有の場合URL		
	※閲覧に権限が必要な場合のIDおよびパスワード	ID:	
		PW:	

## 公演・ワークショップの内容

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人 】

対象	小学生(低学年)	○	/
	小学生(中学年)	○	
	小学生(高学年)	○	
	中学生	○	
企画名	オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全3幕日本語上演		
本公演演目 原作/作曲 脚本 演出/振付	オペラ「ヘンゼルとグレーテル」全3幕日本語上演 原作:グリム童話 作曲:E.フンパーティング 演出:坂口菜里 振付:篠塚瑞桜 公演時間 50 分		
著作権、上演権利等の 許諾状況	各種上演権、使用権等の許諾手続きの要否	該当なし	該当コンテンツ名
	該当事項がある場合	権利者名	許諾確認状況
演目概要	本来はドイツ語で歌われる歌詞を日本語で歌い、上演時間を休憩無しの50分ほどに縮小しています。また公演全てを歌で行うのではなく、司会者が優しくフレンドリーに語りかけるようにオペラで起こっている事やこれから起こる、これから起こるドラマを解説します。歌と司会者を交互に入れる事により子ども達の集中力を保ちポジティブな鑑賞環境を作り、プロのオペラ歌手による歌唱と演技を紹介することが出来ます。また、本来であればヨーロッパが物語の舞台であり、登場する悪役の魔女は西洋の盲目の老婆とされます。しかし、より子どもたちに親近感を持ってもらうため、また魔女の2つの性格を明確に描写するために、江戸時代からの歴史を持つ京舞篠塚流の篠塚瑞桜の所作指導による男振りと女振りの二面性を持った堺シティオペラオリジナルの和物の魔女を登場させます。オペラと言う異文化の演目の中に敢えて日本文化のエッセンスを入れる事により、日本文化と西洋文化の共存、そして共に新しい文化を創っていく姿勢を紹介していきます。		
演目選択理由	オペラは音楽、文学(台本)、演劇(演出)、美術(舞台美術や衣装)、舞踏など複数の分野の芸術の混在によって創造される一つの統一された総合芸術であり、一度に様々な分野の芸術に触れ合う事が出来る芸術媒介です。しかし、オペラに対して人々が持っている敷居の高さが邪魔をして、なかなか社会に浸透する事が出来ません。「ヘンゼルとグレーテル」はグリム童話として既に日本には馴染みが深い作品です。また、おとぎの国の物語という事もあり、お菓子の家、魔法、魔女など非日常的な物がステージの上で息吹を吹き込まれ歌と演劇を通して現実に存在するものとなります。プロの歌手、演奏家、スタッフで作上げるステージを子ども達と同じ場所で体験して自分の感覚として捉えてもらいます。また、ワークショップを通して人間の持つ声の魅力を理解することによって舞台上での物語を更に楽しむことを学びます。生のオペラ公演を目の当たりに見ることで、芸術に携わる様々な仕事の存在も知ることができます。		
児童・生徒の共演、参加又は体験の形態	専門的なトレーニングを積んでいない子ども達でも気兼ねなく“歌”と“ダンス”を通してオペラ公演に参加していただきます。オペラ終盤の魔女によってお菓子の家にお菓子の家にお菓子の家、魔法が解けて目覚めるシーンで歌唱とダンスをしていただきます。等身大の役なので、難しい演技や歌唱を求められる事はなく、事前のワークショップを通して歌とダンスを覚えていただき、当日の舞台に於いて発表していただく形になります。また、歌やダンスを人前で発表する事に抵抗がある子ども達はワークショップで行われるお菓子の家を飾るお菓子やヘンゼルとグレーテルの家に置く道具作製を通してこの公演に参加していただきます。目には見えない裏方の仕事を紹介し、その役割を理解していただきます。公演直前には鑑賞しているだけの子ども達が、見ている席で参加できるように、簡単なダンスの指導を公演に先立って行い、演奏中に全校生徒でキャストの演劇と共に踊ります。		
出演者	【登場人物】 指揮:藤村 知史 ヴァイオリン:阿佐 聖姫子 打楽器:安永早絵子 ピアノ:森脇 涼 ヘンゼル:中村 茜 グレーテル:高嶋 優羽 魔女・お母さん:水野 智絵 妖精:四方典子 お父さん:樹貴志		

<b>本公演 従事予定者数 (1公演あたり) ※ドライバー等 訪問する業者人数含 む</b>	出演者: 10 名 スタッフ: 12 名 合 計: 22 名	<b>運搬</b>	積載量: 3 t 車 長: 7 m 台 数: 1 台
--	--------------------------------------	-----------	----------------------------------

<b>本公演 会場設営の所要時間 (タイムスケジュール) の目安</b>	<b>前日仕込み</b>	有	<b>前日仕込み所要時間</b>		3 時間程度	
	<b>到着</b>	<b>仕込み</b>	<b>上演</b>	<b>内休憩</b>	<b>撤去</b>	<b>退出</b>
	9時	9時～12時	13時30分～14時30分	なし	15時～16時	16時

※本公演時間の目安は、午後、概ね2時限分程度です。

<b>本公演 実施可能日数目安</b>  <small>※実施可能時期については、採択決定後に確認します。(大幅な変更は認められません)</small>	6月	7月	8月	9月	10月	
	20日	20日	20日	0日	20日	
	11月	12月	1月	計		
	20日	20日	20日			
	<small>※平日の実施可能日数目安をご記載ください。</small>					

<b>児童・生徒の 参加可能人数</b>	<b>本公演</b>	共演人数目安	
		鑑賞人数目安	～600名程度

公演に係るビジュアルイメージ  
(舞台の規模や演出がわかる写真)

※採択決定後、図面等の提出をお願いします。





【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人】

児童・生徒の 参加可能人数	ワークショップ	参加人数目安	何人でも可能
<p>ワークショップ 実施形態及び内容</p>	<p>合唱指導：歌唱指導と演技指導。 お留守番をしているヘンゼルとグレーテルが歌い踊る2重奏。 歌と演技による表現力を養う。また、人前に於いて、どれだけ自信を持ってプレゼンテーションを行うための所作を指導します。</p> <p>[標準 90分のワークショップの場合] 挨拶、団体紹介、講師紹介 発声練習 歌唱 オペラ制作に関するレクチャー 質問コーナー 挨拶</p>		
<p>ワークショップの ねらい</p>	<p>オペラの鑑賞は、鑑賞者にとって近よりたい西洋文化であり、オペラへの抵抗や戸惑いがあるかもしれませんが、通常の学校音楽鑑賞教室などでは単なる一観客としての受動的なコンサート体験になってしまいがちですが、ワークショップでの練習を通して実際の公演への臨場感を培います。それによって、この公演に自ら積極的に携わっているという感覚を実感し、そのコンサート体験が子ども達にとって能動的なものになることを狙います。</p> <p>本物の歌手や指揮者・奏者と交流することで感受できることや、プロの舞台スタッフの仕事ぶりも間近に見ることにより、様々な職種があることを認識してもらい、将来のキャリアに対するキャリアに対する視野を広げられることも目的とします。</p> <p>自分たちが努力することによって、自分たちの前に立ちほだかっている壁をとり除き、大きく羽ばたける未来を示すことを願います。ワークショップ体験を通して異文化や自分と異なる考えやアイデンティティを受け入れられる心を育てる機会となることを望んでいます。</p>		
<p>その他ワークショップに 関する特記事項等</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆演奏者 5～6人</li> <li>◆ピアノ使用</li> <li>◆体育館でも音楽室でも実施可能</li> <li>◆本公演の前の時間に実施可能</li> </ul>		

本事業への申請理由

【公演団体名 堺シティオペラ 一般社団法人】

**①本事業に対する取り組み姿勢**

日常生活の中でオペラに触れる機会が少ない中、学校でオペラを鑑賞できる事はとても良い体験となります。しかし、鑑賞するだけではオペラの本質を十分に伝えきる事はできません。この巡回公演ではワークショップや公演を通して、鑑賞する人たちが積極的にオペラに関わることができ、総合芸術を体験するだけでなくキャリア教育を基本とする人間力育成をも目指すオペラカンパニーの姿を発信していきたいと考えております。オペラは高尚な芸術とされる先入観があり、敷居が高いと思われがちですが、芸術教育は人間力を育成するために必要不可欠なものであり、そこで培う豊かな感性こそ、未来の世界を切り開く上で必須のものであることを啓発していく所存です。

また、長年に渡る新型コロナウイルス感染症の残したものとして、ワークスタイルやライフスタイルなどがインターネットの活用などによってデジタル化されています。しかし、人間の情操教育は人々が集まり、同じものを観て、違うものを感じ、その差異を共有してこそ、お互いの理解が生まれると信じています。このオペラ巡回公演を通して、同じ場所で同じものを観て、その経験を語り合い、その結果このデジタル化されていく世の中では学べない人間としての大切な感情を育てて行きたいと考えております。

**②事業を効果的かつ円滑に実施するための工夫**

この事業では、全ての分野に於いて沢山の公演を経験している日本を代表するベテラン歌手や関西の中堅歌手、堺シティオペラKid'sClubの子ども達のためのオペラプログラムを担当している若手歌手をバランス良く配置し、海外で音楽活動を経験している音楽スタッフを揃えて、クオリティーの高い結果を提示できるよう工夫を凝らしています。特に体育館での公演に於いて、舞台スタッフを用意する事で、限られた条件を最大に活かしての演奏効果が臨める舞台を作ることが可能になります。鑑賞するものが安心して公演を楽しめるよう配慮しています。

本事業に対する  
取り組み姿勢、および  
効果的かつ円滑に実施  
するための工夫